

# JR連合 政策News

第288号

2017年9月15日

## JR連合国会議員懇談会メンバーらとの 九州北部豪雨による被災線区への合同視察

～JR九州「久大本線」「日田彦山線」の現状を確認～

2017年7月5日、福岡県朝倉市・大分県日田市をはじめとする九州北部に集中豪雨が発生した。この集中豪雨によって、河川氾濫や土砂崩れが発生し、さらには、土砂崩れによってなぎ倒された倒木が流入し、当該地域は壊滅的な被害を受け、9月11日現在、死者37名、行方不明者4名という多くの人的な被害も発生した。行方不明者の捜索が続く一方、8月8日には、政府が激甚災害と指定することを閣議決定し、復旧復興に向けた動きが始まっているところである。

そして、鉄道においては、JR九州「久大本線」及び「日田彦山線」が極めて甚大な被害を受けた。「久大本線」は九州北部を横断し久留米～大分間を結ぶ地方交通線、「日田彦山線」は城野～夜明間を結ぶ地方交通線であり、それぞれ通勤・通学の足としてだけでなく、沿線都市間を結ぶ地域にとって重要な路線である。今回の集中豪雨によって、広範囲に河川の氾濫や山林からの大量の土砂・流木が発生し、久大本線「光岡駅～日田駅間」の花月川橋りょうの流失をはじめ、日田彦山線「大行司駅」駅舎倒壊、「宝珠山駅～大鶴駅間」の道床流出・軌道変状など、多くの被害を受けた。これにより、当該路線は9月11日現在でも復旧されておらず、バスによる代行輸送が実施されている状況である。また、特急「ゆふいんの森」は、通常ルートでは久大本線を運行していたが、被災以降は小倉・大分経由に変更された。

こうした中、JR連合は、9月11日、JR連合国会議員懇談会の高木義明会長をはじめ9名の国会議員とともに現地視察を行った。今回の視察は発生直後の7月14日にJR九州労組中央本部とともに現地視察を行い、被災状況の深刻さを確認した上での国会議員への働きかけがきっかけとなって実現した。

久大本線の最も大きな被害となった花月川橋りょうについては、6連式の橋桁の全てと5本の橋脚のうち4本が押し流されたが、未だにそれらの大半が撤去されずに当時のまま残されていた。これについては、本来であれば、河川の水量が少ない時期に限って工事を施工する必要があり、3年間は復旧に要すると言われていたが、国等の協力を受け、来年夏頃を目処に復旧することで現在進められている。

日田彦山線については、3カ所を視察した。最初に訪れた宝珠山～大鶴駅間の瀬部踏切では、7月の視察時から交差する道路は補修等が進められていた一方で、鉄道設備はほとんど手つかずの状態であった。続



▲光岡～日田駅間の花月川橋りょう倒壊現場には、当時のまま橋桁や橋脚が河川内に残されている。

いて、福井橋りょうでは、鉄筋コンクリート製の橋の上にあった道床やレールが流されており、むき出しの状態が残っていた。豪雨によって氾濫した河川の勢いにより、近接する家屋にレールが巻き付いたような状態になっていたとのことであった。最後に訪れた大行司駅では、駅舎が倒壊した。7月の視察時には倒壊した駅舎の撤去工事が進められており、今回の視察時点では、既に全て撤去が完了していた。

なお、日田彦山線の被災区間においては、バスによる代行輸送が行われているものの、山越えとなる筑前岩屋駅（東峰村役場）～彦山駅間については1日2往復のみで利用者数もわずかであるため、ジャンボタクシー（定員9名）で実施されているということもあり、人口減少・過疎化が進む地域における公共交通の現状を表していた。

視察後、JR九州労組会議室において、意見交換会を開催した。今回の自然災害や老朽化した鉄道施設に対する支援等に関する重点政策要求を取り上げた。

JR連合は、「鉄道軌道整備法」に基づく鉄道施設の災害復旧に対する補助については、適用条件緩和と公的補助の拡充等、支援の強化を求める取り組みを継続的・積極的に行ってきた。現行制度は赤字会社のみ適用され、JR九州会社は対象外となっている。一方、与党内で、一定の条件の下、黒字会社に適用されるような改正が検討されている。黒字会社が対象となるように改正される場合においては、支援制度を利用するか否かの判断時において、あるいは、公的資金が注入されることによって、事業者の主体性が損なわれることがないようにすべきであるということ、共通認識として確認した。さらには、議員からは真に必要なものについては、死に物狂いで求めていくとの力強い発言もいただいた。

また、九州新幹線の西九州ルートにかかるフリーゲージトレインの問題についても取り上げた。議員からフル規格による整備の必要性が述べられ、JR連合の要求内容を補強していただいた。



▲宝珠山～大鶴間の瀬部踏切付近は道床が流され、線路が真砂土に覆われ、その上から雑草が茂っている。



▲大行司駅駅舎は山からの土砂崩れによって倒壊し、撤去工事を終えて跡形もなくなった。



▲鉄道の災害復旧支援スキームについて意見を交換した。

今回、意見交換を行った政策については、今後の動向を注視しつつ、JR連合国会議員懇談会メンバーとの連携を密にとり、しっかりと取り組んでいかなければならない。

さらに、JR連合は、JR九州会社が果たすべき使命に向けて、そして将来を見据えて、JR九州労組や各加盟単組はもとより、連合や交運労協とも連携をさらに深め、地域公共交通の在り方やその維持・発展に向けた公的支援スキームのあるべき姿について、既存の枠組みにとらわれず政治・行政や世の中へ訴える活動を継続的に行っていく。

以上